

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会 委員名簿（敬称略）

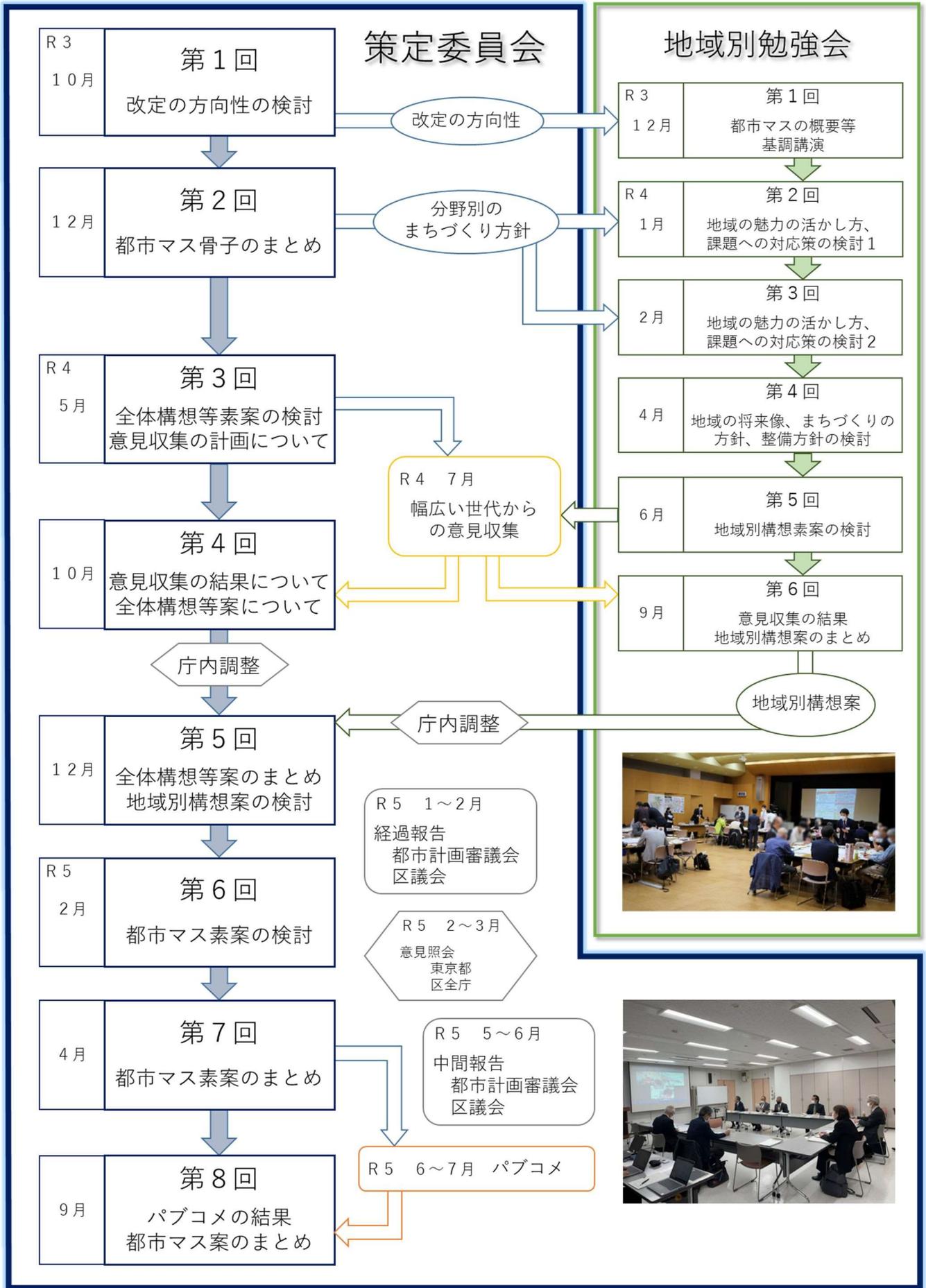
委員長	佐野 克彦	元東京都建設局長
副委員長	加藤 孝明	東京大学生産技術研究所 教授
委員	郷田 桃代	東京理科大学工学部建築学科 教授
委員	轟 朝幸	日本大学理工学部交通システム工学科 教授
委員	阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 准教授
委員	泉山 壘威	日本大学理工学部建築学科 助教
委員	谷澤 多美雄	葛飾区 自治町会連合会
委員	矢部 文雄	東京商工会議所 葛飾支部 副会長
委員	中村 靖雄	東京都建築士事務所協会葛飾支部 支部長
委員	青木 堅治	東京都宅地建物取引業協会葛飾区支部 支部長
委員	吉田 眞	葛飾区都市整備部長
委員	杉本 一富	葛飾区交通・都市施設担当部長
委員	泉山 省吾	葛飾区街づくり担当部長

葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会スケジュール

令和3年10月25日	第1回 委員長の選出等 改定の方向性について
令和3年12月23日	第2回 都市マス骨子のまとめ
令和4年 5月27日	第3回 全体構想等素案について 住民意見の反映について (意見収集の予定・地域別勉強会の経過報告)
令和4年10月25日	第4回 住民意見の反映について (意見収集の結果・地域別勉強会の経過報告) 全体構想等案について
令和4年12月22日	第5回 全体構想等案のまとめ 地域別構想案について
令和5年 2月10日	第6回 都市マス素案について
令和5年 4月頃	第7回 都市マス素案のまとめ (その後、パブリックコメント)
令和5年 8月頃	第8回 パブリックコメントの結果報告 都市マス案のまとめ

(参考)

	予定	策定委員会	地域別勉強会
令和3年	10月	第1回	—
	11月	—	—
	12月	第2回	第1回(12/12)
令和4年	1月	—	第2回(1/15)
	2月	—	第3回(2/20)
	4月	—	第4回(4/24)
	5月	第3回	—
	6月	—	第5回(6/11)
	7月	区民意見収集	
	9月	—	第6回(9/3)
	10月	第4回	—
	12月	第5回	—
令和5年	1月	経過報告(区議会)	
	2月	第6回	—
		経過報告(葛飾区都市計画審議会)	
	2～3月	意見照会(東京都・区全庁)	
	4月頃	第7回	—
	5～6月頃	中間報告(葛飾区都市計画審議会・区議会)	
	6～7月頃	パブリックコメント	
	9月頃	第8回	—
	12月頃	都市マス改定	



第5回策定委員会における主な意見

項目	意見
区のまちづくりを取り巻く状況	<p>p.13、さいたま新都心駅の写真は、イベントと実験の区別がつきにくい。どうしているのか、言葉を加えるか、あるいは、もう少し実験らしい写真に変えたほうがいい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.13</p>
都市計画マスタープランの基本方針	<p>2まちづくりの目標としてイラストがあり、それらのイラストを含めて、3理想像が描かれているが、項目が変わると別のもののように見えて、3の理想像が独り歩きしてしまう懸念がある。</p> <p>本当は全部1枚に仕上げられるといいが、入らないということだと思うので、まちづくりの目標の各部のいろいろなものが出てきたあとに、理想像をそのまま続けて盛り込んだ方が、誤解がないのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.29、33</p> <p>p.29、「災害時に一時的に避難できるオープンスペース」は、防災と併せて、日常的に区民が愛着を持てる場所にすることとセットで大事なので、防災とプレイスメイキングのような視点から、表現方法を検討すればいい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.29</p> <p>理想像の中に水をためる窪地があるが、中流にある遊水池、流域治水で言う、下流の街を守るためにここで溜めるもの、みたいなものとは少し役割が違うような気がするので、誤解がないようにしておいたほうがいいのではないか。</p> <p>葛飾区の場合は、ある意味、島みたいな形になっているので、葛飾区内に降った雨を、ポンプで排出できない場合に備えて一時的に溜めておく、ということが分かるような表現にするといい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.34</p>
将来の都市像	<p>p.37、交流・連携・挑戦の都市構造の図中にある「広域」という言葉と、多核連携型の都市構造のイメージの「広域」拠点とが若干重なってくるところが気になる。</p> <p>また、文章の一番上の①1行目に「広域レベル」とあり、下でも「広域」と出てくると勘違いしてしまうのではないか、という感じがする。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.37</p>

<p>防災まちづくり</p>	<p>災害時、インフラ機能である電気と通信は非常に重要で、通信も電気がないと途絶えてしまう。</p> <p>防災における強靱化として、再生可能エネルギーの施設があれば、ネットワークが途絶えることなく、災害時のエネルギー供給源としても重要なので、p.51 や p.53 の一番上に、再生可能エネルギーを災害時にも活用するという文言が入っているといいのではないか。 資料5 p.51、53</p>
<p>市街地整備</p>	<p>エリアマネジメントは、その活動によって、現在も未来もその先も、まちの魅力・価値が維持されて、まち自体が陳腐化していない、という意味合いがあると理解しているが、そのことが伝わるように、エリアマネジメントはいったい何のためにやるのか、について、説明や解説をしておいた方がいいのではないか。</p> <p>既にやっている所が、実際にどういう組織で、どういう形で運営されているのか、エリアマネジメントの成功事例を教えてください。</p> <p>葛飾区の場合は、ひばりが丘など住宅系の事例を解説するといいいのではないか。 資料5 p.70</p> <p>市街地整備の方針にエリアマネジメントが入っているが、整備だけではないところがあるので、市街地形成なのか、言葉尻が気になる。 資料5 p.63</p> <p>p.67～68、居心地良く歩きたくなるまちやウォーカブルの話が4項目あるが、平易に日本語で書くと、文章を全部読まないとも内容を理解できない感じで埋もれてしまうので、論点を整理しながら記述するといいいのではないか。</p> <p>ウォーカビリティは、本来、土地利用の多様性や人口密度、アクセシビリティみたいなことがとても重要であり、国交省が推進していることに触れることも大事だと思う。</p> <p>また、丸の内の事例写真が2つ続くと、やや葛飾のイメージから遠のく印象があるので、商店街や既成市街地の事例の方が、親近感も湧くのではないか。 資料5 p.67、68</p>

交通体系整備	<p>自転車空間の確保について、都心のほうは自動車交通量がだいぶ減ってきているので、減った分、そのスペースを自転車に提供するという事は理解しやすいが、葛飾の場合、具体的に通行空間をどう整備していくのかが若干理解しにくい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.78</p>
緑と水辺の整備、景観形成の方針	<p>p.81、水と緑については、十分書かれているが、河川の水面利用について、水面利用できる状態をつくることで、まちの価値・魅力を生み出していく、というようなことが書かれているといい。併せて、現行の都市マス表紙の、空から見た七曲りの写真が、格好いいので、どこかに入れられるといい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.40、65、69</p>
実現化方策	<p>p.103、実現化方策について、46万人の区民に行き渡り、一人一人が認識しなければいけない。ただ冊子を配って、読んでもらっても、「ああ、計画はこういうふうになるんだ」と思われるだけで、手を挙げて動くことはまずないだろう。</p> <p>(2) 役割分担①区民の役割の文章だけでは、何もないまま終わってしまうと思う。今、自治町会は250くらいあるが、加入率50~60%であり、自治町会だけでは区民全員に伝わりにくい。</p> <p>誰かがリーダーになって引っ張っていくしかない。何らかの組織を立てる、協議会なのか、自治町会に紐づく別の組織をつくるのか、少しご検討いただければと思う。</p> <p>区民任せにしていたのではこの計画は全く動かず、また行政に一任してしまうような感じがする。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.151~153</p>
地域別構想	<p>2(5) 区民アンケートのまとめ方として、全地域をコメントするのであれば、表などにしたほうが分かりやすいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.111~116</p> <p>地名を並べて、地域別の名称としているが、一言で呼びづらい印象がある。正式な地域名称は、それでいいと思うが、分かりやすく呼べる名称として、例えば、北部、南西部など、方位に絡めて一言で呼べる名称を、括弧書きでもいいので、表示できれば、便宜的に呼ぶときにいいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.117~118</p>

	<p>全体構想等案は、ワクワクする感じだが、地域別構想案では、そのワクワク感がどこかにいった感じがする。</p> <p>例えば、全体構想等案では、フィーダー交通やサイクルポートなどいろいろな整備が謳われていたが、地域別構想案では、バスを増やすことと道路が広がるくらいなのかな、という感じで、あまりピンとこない。もう少し何かないのかな、という感じがする。</p> <p>地域別構想になると、かなり地域的、具体的になるので、全体構想で掲げたことをさらに記述すると、重複感があり、分量的にもかなり多くなるので、全体を見通してのバランスもあると思う。</p> <p>地域別構想だけを見ると少し薄い印象になるかもしれないが、全体構想とセットであると承知することが、今後必要になるかもしれない。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.103</p>
	<p>区民のためのまちづくりが中心にあるとして、外からも来てほしいということも、しっかり書かれた方がいいと思う。</p> <p>葛飾の中では、柴又が人を呼び込める場所、一番のポイントだと思う。p.21、柴又が、歴史的建造物等を中心にしたまちづくりというのは、そのとおりだが、外から人を呼び込むことを少し強調してほしい。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.127</p>
	<p>新金線沿線の各地区に、新金線について同じような文言が入っているが、金町や新小岩は、拠点性や駅へのアクセス性を高めること、高砂は、どちらかという不便地域の解消ではないかと思うので、その辺の違いを書き込んでもらえるといいのではないか。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.74</p>
	<p>例えば、p.22の地図に江戸川が表示されているが、江戸川をどう活用していくか、河川敷の利用・活用というところがあまり書かれていないように感じる。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.84~85</p>
	<p>区民は、この計画に書かれたことは実行してくれる、と感じると思う。現行の都市マスの地域別構想と比較すると、同じ項目もあれば、新しい項目もある。区民にとっては、それらの項目が、どういう経過になっているのか、うまくできているのか否かが気になる。やりっぱなし、書きっぱなしではなく、成果まで入れられるといいと思う。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.15~26、155~157</p>
	<p>今回の地域別構想は、地域が作ったことが目玉なので、その点をもう少しくローズアップしてもいいかもしれない。</p> <p style="text-align: right;">資料5 p.164~174</p>